

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500031		
法人名	社会福祉法人 みとし会		
事業所名	楽陽荘 グループホーム ちーず		
所在地	香川県観音寺市柞田町甲1936番地		
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 2 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、その方らしさを大切にしています。職員、ご家族との情報共有を行いながら、認知症症状の進行の緩和と日常生活動作の維持、向上に努めています。職員も認知症介護にかかる研修を受講し、施設内でも定期的な研修を行っています。また、利用者の意思を最大限尊重するよう心がけ、個性やこだわりを理解することで一人ひとりに合った関わりができるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790500031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 11 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均は、90歳。「いつも元気で笑顔いっぱい」、「普段と変わらない生活」は、穏やかに安心できる現れである。食事とレクリエーションに工夫をし、職員8名が一丸となって、利用者のお手伝いや楽しみを企画している。大好きな歌、美味しい料理に心掛け、観音寺の名物の海老天を載せた手作りうどん、阿波出身の方に合わせた蕎麦を月2回提供している。料理メニューは、ボリュームミーで健康的、且つ美味しい。旬を満喫し、家族的な雰囲気での食事タイムは、一軒の家みたいに時を過ごしていた。様々なレクリエーションを参考にして、「今から体操、風船バレーに参加したい人？」と募ると、自分の気持ちをはっきりと伝えて利用者は手を挙げる。施設外では、全員参加の外出レクリエーションと称しての紅葉狩りのドライブでは、カメラマンに扮した職員2名が、シャッターを切り、記憶に残る瞬間をお便りに、リビングの壁に彩りを添えている。文化祭に出展することもあり、運動会では、利用者対家族のバトルが繰り広げられ、パン食い競争、玉入れ、水運び、スプーンレースなど、「負けたらもう一回させて」との声も聞き、家族は「来年は勝ぞ。」と威勢が飛び交う。長閑で、和気藹々としたお茶会も利用者を愉ませ、長生きへの思いがひしひしと伝わってきた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に利用者、職員と一緒に基本理念「笑顔で仲良く」「自立のお手伝い」を唱和し、それに基づいたサービスを提供している。	理念はリビングに掲示。タイムカードの上や申し送りノートがある机の上、冷蔵庫の横にもあり、常に経営理念に見守られている。CDに理念を録音し、ラジオ体操後に唱和し、利用者の方も理念を覚えていて一緒に唱和し、「もっと大きい声で」と投げかけ、か細い声の時は、「職員さんも声出して」とはっぱをかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為中止になっていた秋祭り、文化祭が昨年度から再開となる。中学生の体験学習、高校生のボランティア訪問、地区の文化祭にも出展している。	今年は利用者の体調に合わせて中学生の体験はなかったが、町内の川の攫いを手伝い、月1回のボランティア、文化祭の防災に参加して、利用者の作品を出展して交流を深めている。観音寺特有の秋祭りでの「ちょうさ」という太鼓台の太鼓を打つを見て、地元の方とふれあい、昔を馴染んで若返っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の文化祭に作品を出品し、地域の方々に事業所の活動や認知症の理解が得られるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、自治会長、地域住民代表、市の職員、ご家族代表、主治医に参加頂き事業所の取り組み、委員会活動等の報告、意見交換を行っている。	理美容や季節の野菜を植たり、ドライブに連れて行ってあげてはどうかと、ご意見を賜り、地域の方が親身に参加している。特に、理容やイベントのメイクが好評で、もっと利用が増える企画を期待したいとエールを送ってくれている。	身近な方を誘って、視野を広げてはいかがでしょうか？	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	人員、設備、運営の基準等についての変更や不明な点がある時には、その都度直接市町村担当者に聞きにいくようにしている。2ヶ月に1回地域密着型事業所連絡会に参加し、自事業所の実情を伝え不明な点は質問ご指導頂いている。	窓口は管理者が行っていて、BCPについては、すべてを確認できるように、資料を交えて説明して頂けるので、行政とは話しやすい。また、気になるところは、厳しく指導して頂けるので、不安だけど安心できる体制となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を置き、定期的に職員自身の利用者に対する関わりの振り返りを行い、スピーチロックや利用者の立場になって考え関わっているかを確認している。	身体拘束廃止委員会は、毎月開催している。気づきから「こうしたらいいよ」と連絡会からも指導して頂いて参考にしている。職員がネットや書籍から色々情報を得て、学びを共有している。スピーチロックのやり方は、職員に委ねて実施している。監督は管理者で「基礎からしてね」と指導している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に虐待に繋がる些細な行為を見過ごすことのないよう意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設において制度を利用されている方はいないが、必要に応じて私たち職員も学び活用できるようにしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が利用者やご家族に対し十分な説明をし、ご理解納得して頂けるよう努めている。入所後も疑問や質問等への対応を行うことで理解を深めて頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。苦情に対しては迅速に改善策を立て全職員に周知している。	担当制をしいていて、利用者の気持ちに寄り添っている。会話からどうして欲しいのかを読み取り、担当から職員全員に促している。体調変化の時は管理者、消耗品や足りないものは担当者から家族に連絡している。家族とは、電話で心配事を聞き、密な関係ができていますが、最近はマイナンバーカードの相談が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度から生産性向上委員会を設置し、職員一人一人がよりよい職場と感じられるように、業務改善の捉え方などを共有し、今日からできる事に目を向け課題を皆で出し合うようにしている。	スタッフから意見が出て、その場で解決できる体制が築けている。職員の体制も落ち着いたので、人数が増えた分、その場で解決できるようにしている。今までは、ご飯を作る時、食器の片付け場所、介護の仕方など試行錯誤していたが、業務改善は進んでいる。職員の有給休暇や連休も相談できる関係も構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合ったアドバイスや内部研修の実施、外部研修への参加の機会を設ける等向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数や力量に応じた研修への参加や資格取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所連絡会や研修会への参加で他施設職員との交流、意見交換することでサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面会をし、ゆっくりお話を聞き、表情や言葉から本人が困っていることや不安なことを聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族参加でケアプランカンファレンスを行い、利用者を支援していく上でご家族が困っていることに耳を傾けながら少しでも安心して生活が送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者、ご家族が必要としている事が何かをお話の中から聞き出し対応できるよう努めている。特にに利用者の意思を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、料理や裁縫等長年の経験を生かした工夫等を教えて頂きながら共に生活する関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の利用者、ご家族の思いを大切にしている。体調変化等があった時はすぐに連絡、相談しながら利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、知人が面会に来やすい環境づくりを心がけている。行きつけの美容院にはご家族の協力を得て出かけている。感染予防対策を行いながら交流が増えるよう支援している。	利用者の高校の同級生が来てくれ、「また来てね」と頼むと3回来てくれ、昔話で花が咲き、同級生の女性の名前で盛り上がった。美容師も馴染みの関係となっていて、今風の美容の話で盛り上がっている。窓際のベンチに2～3人集まって、おしゃべりをしたり、近くの山崎ショッップまで散歩して、顔馴染になっている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事など声を掛け合いながら一緒に行い、役割を分担しお互いを助け合う気持ちを大切にしている。利用者同士日常の会話等の様子を見て席替えなども行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「何かあったら連絡ください」と伝え、本人・ご家族の話し相手や相談に応え、支えになれるよう努めている。同法人の施設へ移られた利用者様については面会に行き様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを把握し、関わり方の違いを職員皆で共有している。	職員は常に利用者を気遣い、横に佇んで、世間話をしようとする、「そんなに近こう寄らんでも聞こえてるんよ」と嬉しそうにし、意向を語って頂ける。朝起きてから寝るまで殆どどの利用者は、リビングに集まり、好きなことのオンパレード。意思表示がはっきりとしていて、リビングは何でも語ってくれる場となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前施設の職員からお話を伺い情報を頂き、今までの暮らしについて知るよう努めている。また、ご本人からも日々の生活の中で意向をお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化、顔色、いつもと違う表情に気をつけるようにしている。気が付いた事はタブレットに入力し情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月ごとにサービスの実行確認と目標の達成度等のモニタリングを行い、サービス計画の見直しを行っている。担当職員を中心に本人、ご家族の意向を尊重しながらカンファレンスを行いケアプランを作成している。	入所前に介護計画のベースを作り、1ヶ月様子を見て、担当者と3ヶ月に修正して、利用者一人ひとりに寄り添えている。利用者の性格や雰囲気などで担当者を決め、職員全員でバックアップしている。安心感が高い介護となっている。モニタリングは、情報を申し送り、毎月集計をして共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫はタブレットに入力して職員はいつでも見ることができるになっている。急な体調変化が見られたらフロアカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段の会話に耳を傾け、したい事、いきたい所、楽しみたい事を一緒に見つけるようにしている。また、ご家族の希望に添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の図書館から本などを借りてレクリエーションに活用している。昨年度から地域の催事(紫陽花祭り・萩まつり等)に出かけお抹茶を飲んだりお団子等欲しい物を買うことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には週1回受診して、ドクターに日々の状況を伝えている。また、ご家族の希望する病院にも受診している。	入所前のかかりつけ医から入所後、施設の提携医へほとんどの方が変更している。他科診療は、家族が診察に連れていくことが基本であるが、時に都合が悪い時は、職員が付き添うこともある。歯科も連れて行っている。どのドクターとも密な関係となっている。	歯科医の活用で、嚥下・口腔ケア・口腔体操、歯磨きなど定期的な診療指導をして頂いて、施設の良さである食事が常にできる体制にしてはいいか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調変化も見逃さないように、気づいた時にはかかりつけ医に相談をして受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の状況を理解してもらうためにフェイスシートを作成して入院先の病院へ迅速に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示の下カンファレンスを実施し、本人やご家族の意思に沿えるように検討している。	重度化の説明は入所時にしている。ドクターの診療を基に、ドクターから指示して頂き、今後の方針を決めている。認知の進み具合に合わせて、要介護の変更を家族と相談し、行政に依頼している。ターミナルはドクターの指示で、病院及び特養に勤めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、救命救急法の講習を受けている。急変時の対応については、流れを把握し行動できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、日中、夜間想定避難訓練を行っている。地震災害想定は特養と合同の訓練を実施し安全に利用者が避難できるよう取り組んでいる。緊急連絡網で廻し電話の訓練も行っている。防災の日には施設内の電気を消し停電状態を再現して利用者と一緒に非常食を作って食べたりなどの訓練もしている。	年4回訓練で、年1回は地震での水害訓練で、AED研修も兼ねている。実際に非常食を作っていて、お米を耐熱の袋に入れ、0.5一人分、お皿も紙で作っている。備蓄は、水、乾物、レトルト、マジックライスも用意している。お菓子も備蓄の一つとして、ビスコやミレービスケットが好評である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時以外にも普段からプライバシーを守る対応を心がけている。部屋に入る際はノックの徹底、一人で過ごされている時は本人の希望を尊重している。	敬称は基本、苗字にさん付け。家族の了解のもと、元学校の先生は先生と呼んでいて、「はいはい」と気分よく行動される。トイレの失敗時は、「また、こういう時もあるから心配せずにこれを使ったら」と、さりげなく勧めている。「私がしたんじゃない」と抵抗されたら否定せずに、「どうしたんだろうか」、「誰がしたんだろうね。」と切り返している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いする時は必ず声をかけ、同意を得てから行っている。また、気兼ねをしていないか等表情の観察をしている。どの服が着たいか、何を食べたいか等小さな事でも選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に応じて日中でも短時間居室での休憩、お昼寝などしてもらっている。レクリエーション時には利用者全員に声掛けを行うが、その方の好き嫌いがあるので無理強いせず楽しんでもらえるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、夕の整容はゆっくりとできるように見守り、できないことはお手伝いしている。2か月に1回近隣の理容室に訪問理容を依頼し、本人の希望の髪型にしている。毎日の衣類は本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食下ごしらえから利用者と一緒に作っている。月一回はおごちそうの日、手づくりおやつの日があり、利用者の希望をお聞きしてメニューを決めている。季節を感じて頂けるよう工夫している。誕生日には手作りケーキと本人の希望のメニューでお祝いしている。	食卓の会話は盛り上がりやすい。「みかんが甘くない」、「うどんは好きじゃない」とわがママが言えるくらい親密である。麺類を食べる時は感謝を込めて椅子に正座をして食される方や、「うどんの汁が薄いよな」と、隣に確認しても「聞こえん」と答えて、愚痴を擦り交わす利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はその都度タブレットに入力し摂取量が少ない時は栄養補助食品を勧めている。嚥下障害のある方にはトロミ剤を使用したりミキサーをかけて食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、準備をして歯磨きの声掛けを行い見守っている。うがいは緑茶を使用、夕食後は義歯を預かり洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と排便チェック表をつけ、個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレで気持ちよく排泄でき失敗が減るようお世話している。	排泄チェックシートで管理していて、IPADに記載して共有しやすい。リハビリパンツにパッドの方が多く、布パンツが2人いる。夜間は付き添うスタイルでトイレに連れて行き、安心感を与えている。トイレの神様の絵が貼ってあり、数名がスッキリとした気分で、用を足せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝には牛乳、水分補給時はバナナジュース等の乳製品を提供している。また、おやつ時には茶寒天で腸の動きを良くして排便を促している。体調に合わせて散歩、体操を行い身体を適度に動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日設定(週2回)はあるが、ある程度余裕を持ちゆったりとした入浴時間の確保で利用者の希望をできる限り尊重し、時間や曜日など個別対応ができるよう努めている。入浴拒否の強い利用者もいるが、その日の出勤者で入りやすい雰囲気づくりをして関わっている。	風呂場は広く、機械浴と普通浴の両方で、楽しめるようにしている。職員の言葉掛けで、入浴がスムーズになった。入浴拒否の方には、車いすを居る場所まで運び、「ハイヤーが来たよ」と勧めるとすんなりとお風呂場まで導ける。蜂窩織炎の方は医師の指示によりシャワーにして健康状態を維持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後から就寝前までゆったりと過ごして頂けるよう配慮している。各居室は馴染みの物を持ち込み安心した生活環境で良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr、指示の下それぞれの薬の用法、用量を正しく理解し服薬介助している。また、マニュアル作成、誤薬防止に努めている。薬が変わった時は、状態の変化に注意しDr、薬剤師に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い等を通じて役割を持ってもらっている。また、ご家族からそれまで楽しんでいた趣味等の情報をお聞きしながら、職員と一緒に続けたいけるよう支援している。(大正琴・キーボードに挑戦している)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、お誕生日企画として以前のように外食も考えている。全員での昼食や軽食、うどん屋等行きやすいお店を探している。	天気の良い時には、施設内の第2駐車場まで散歩している。時々イベントとして、お茶会をしているので、お菓子としてのお団子を買ってきて、喜んで、「自分の好きなものを買いたいなあ」と意見があったので、将来お菓子を買に行く計画も立てている。外出場所もトイレ設置の場所を探しているが、身近な馴染みとなっている山崎ショップへ安心して出かけられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年度からご家族に相談、1000円程度預かり、出かけた時に希望の物を買うことができた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には、いつでも電話ができるようにお世話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物、掲示物を利用者と一緒に作り飾っている。又、天窓により採光、換気の調整、照明に配慮し、居心地良い空間作りを心がけている。	リビングの一角に畳の場所があり、ゲームやイベントの道具を置いている。共用空間では、ほとんどこの場所で過ごしているので、クイズ形式や昔の歌を歌って有意義な生活で費やしている。食事が終わって、食後のお茶の時間は人気があり、大正琴で君が代、故郷、モミジ、さくら、荒城の月を奏で、心温まる楽しい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者が同じテーブルで食事や話ができるように、利用者の希望で席の移動もできるようにしている。また、席を移動してのレクリエーションも実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は家で使っていた物を持ってきてもらうようにしている。椅子や机、ご家族の写真等も持ち込み自室で落ち着いて過ごせるようにしている。	居室は寝ることに徹していて、居室はあまり飾らず、部屋はホッとすると横になろうかと思う気持ちが強く、リビングでみんなと語り合いたい方が多い。家族からの贈り物を飾り、テレビを設置している方もいるが、スッキリとした清潔感のある居室が多く、安心して寝るための部屋となっていて、昼夜逆転の方はいない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に応じて老人車や歩行器を使用して頂き見守っている。移動経路には障害になるものは置かないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				